

試験運行2年目に向けて、町のバスの見直しを始めました

町では、昨年10月から鞍手町地域公共交通総合連携計画に基づき、すまいるバス（コミュニティバス）ともやいタクシー（予約型乗合タクシー）の試験（実証）運行を始めました。この計画では、3年間の試験運行の中で、事業評価と見直しを繰り返し、鞍手町に最もふさわしい、持続可能な公共交通のあり方を見つけていることとしています。スタートから9か月が経過した町の新しいバスは、利用者の期待に応えられているのでしょうか。半年間の利用状況や、3月に実施したアンケート調査などの結果をもとに検証してみましよう。

試験運行がスタートするまで

路線バスの廃止や縮小、また交通事業者の撤退など、地域公共交通のあり方は、近年、全国的に大きな問題となっています。

町でも、便数が少ない、乗り継ぎが不便、利用者が少ない、町の財政負担が増え続けているなど、バス路線を始めとする町の公共交通は、大きな問題を抱えています。

特に西鉄バスやコミュニティバスへの赤字補てん金は年々増え続ける傾向にありました。

このような問題を解決するため、住民代表や交通事業者、交通問題の専門家などの委員

で組織する鞍手町地域公共交通活性化協議会で協議を重ね、課題を整理し、目標とそれを達成するための具体的な改善策として「鞍手町地域公共交通総合連携計画」を昨年3月に決定。10月から、すまいるバスと、もやいタクシーの運行が始まりました。

まちなか線の利用は1日約31人

試験運行1年目には、従来のみやわか線の7往復（休日などは6往復）に加え、新たにまちなか線の運行を始めました。

まちなか線は、鞍手駅など町内主要施設へのアクセス向上を主な目的として、くらし

すまいるバス平均利用者数（1日当たり）

	みやわか線	まちなか線	合計
試験運行前	116人	—	116人
試験運行後	99人	31人	130人
増減	▲17人	31人	14人

すまいるバスへの赤字補助金（1か月当たり）

	みやわか線	まちなか線	合計
試験運行前	272,047円	—	272,047円
試験運行後	294,535円	607,478円	902,013円
増減	22,488円	607,478円	629,966円

の郷から鞍手駅間を1日15往復（休日などは8往復）しています。

しかしながら、試験運行を始めた平成23年10月から24年3月までの半年間のまちな

か線の利用者数は、5千612人、1日約31人、1便当たりでは1.2人と、目標を大きく下回る結果となりました。

一方、みやわか線の同期間の利用者数は1万8千101人。1日約99人、1便当たりでは約7.4人が利用しました。

試験運行前のみやわか線は、1日平均約116人が利用していましたので、一部の利用者は、まちなか線へ分散したと言えるでしょう。

また、今回の試験運行では、乗り継ぎの経済的負担を軽減するため、割引制度を導入し

ました。西鉄バスや、もやいタクシーから、すまいるバス（鞍手駅）に乗り継いだ場合の運賃を100円に割り引くもので、半年間で784件、1日当たり4.4件の利用がありました。割引券の利用は、月ごとに増えていて、徐々に定着していると考えられます。



すまいるバスに1か月 約90万円の赤字補助

町では、すまいるバスの運賃収入が運行経費に満たない場合、その赤字額を委託会社に補助しています。

試験運行後の半年間の収支としては、運行経費を100とした場合の運賃収入の割合は、みやわか線が、58・9パーセント、まちなか線が18・6パーセントで、町では月平均約90万2千円の赤字補助

をしました。

まちなか線は、JRや西鉄バス、もやいたクシーなど他の公共交通機関からの乗り継ぎを前提に、町の主要施設へのアクセス強化のため、導入しましたが、利用状況や運行

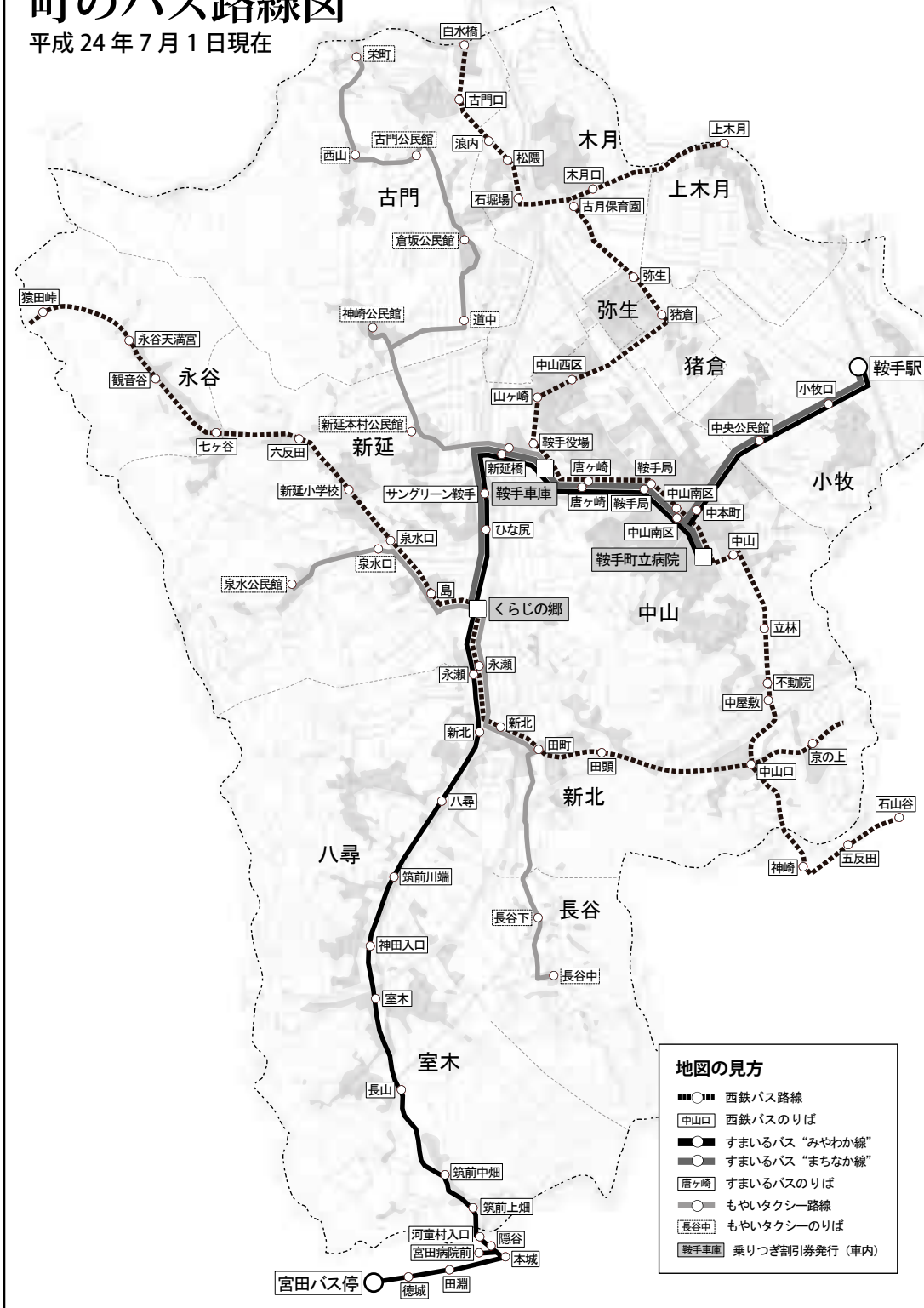
収支から、思った成果が得られていない結果となりました。

もやいたクシーの利用は2日に1人

もやいたクシーは、すまいるバスや西鉄バスなどの利用

町のバス路線図

平成24年7月1日現在



もやいたクシーの利用状況（1か月当たり）

	古門線	長谷線	泉水線	合計
H23.10	8人	0人	9人	17人
H23.11	4人	0人	6人	10人
H23.12	4人	2人	7人	13人
H24. 1	0人	0人	17人	17人
H24. 2	3人	0人	7人	10人
H24. 3	3人	0人	12人	15人
合計	22人	2人	58人	82人

が困難で、公共交通が空白となっている地域をカバーするために、古門地区の一部や長谷地区、泉水地区に導入しました。事前に予約した人が乗り合って移動するタクシーで、現在、古門線では鞍手車庫まで、長谷線と泉水線は、くらの郷まで、平日4往復、休日などには2往復、運行しています。

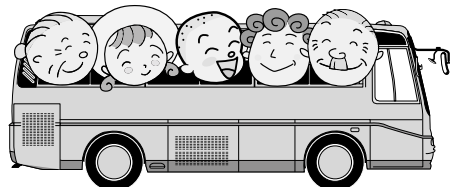
試験運行を開始して半年間の利用状況を見ると、一番利用が多かったのは泉水線で、58人。次いで古門線の22人。長谷線は2人と、ほとんど利用がありませんでした。半年間の利用合計は、82人。1日当たりでは、0・45人となり、2日間で1人しか利用していないという結果になりました。

すまいるバスアンケート調査

- ・期間 平成 24 年 3 月 30 日から 4 月 12 日まで
- ・内容 利用状況や満足度、意見、要望など 10 問
- ・対象者 720 人 (16 歳～ 22 歳、65 歳以上)
- ・回答 (率) 360 人 (50.0%)

すまいるバス利用動向調査

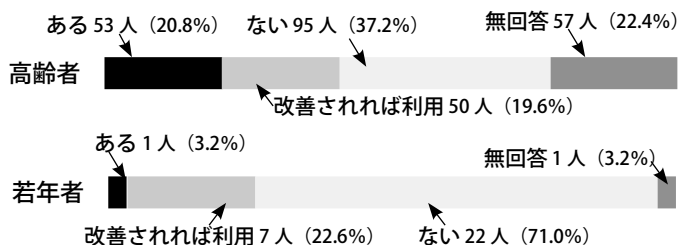
- ・期間 平日 4 月 13 日、休日 4 月 15 日
- ・内容 利用区間、乗降バス停などの動向
- ・利用者数 みやわか線 (平日 123 人、休日 67 人)、
まちなか線 (平日 61 人、休日 16 人)



町では、3 年間の試験運行のうち、第 1 年度 (平成 23 年 10 月から平成 24 年 9 月まで) の事業内容を評価、検証し、見直しを行うため、利用実態調査を実施。その中から、すまいるバスまちなか線と、もやいタクシーの改善を望む声をご紹介します。

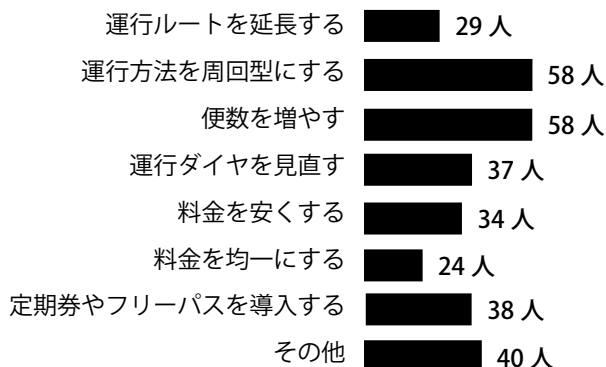
すまいるバスと もやいタクシーの 利用実態調査を 実施しました

Q 今後、すまいるバスを利用する予定はありますか？ (高齢者：255 人 若年者：31 人)



「ある」と回答したのは高齢者の約 2 割で、「改善されれば利用」と回答した人を合わせると 4 割以上に利用の意向がうかがえます。また、若年者のうち約 25 パーセントが「改善されれば利用」と答えていて、見直しの必要性が示されています。

Q どのように改善すれば、まちなか線は利用しやすくなりますか？ (複数回答：318 件)



まちなか線の改善については、「運行方法を周回型にする」と「便数を増やす」が最も多く、それぞれ回答全体の 2 割を占めていました。次いで「定期券やフリーパス券などを導入する」、「運行ダイヤを見直す」などの声が多く寄せられています。また、その他の改善案では、「くらの郷まで直行し乗り継ぎがないような便にする」や「バスのステップを低くする」、「プリペイドカードを導入する」などの意見がありました。

現在のすまいるバスまちなか線と連絡する町北部の周回バスと、町南部の周回バスを運行して、町全体で利

便の乗り換えのない運行にしてほしい。(60 歳代・女性)

以前のよう、乗り継ぎをしなくても、くらの郷まで行けるようになってもらいたい。今では家から出られませんが、バス代を少し払ってでも、前のように風呂に行きたいのです。(70 歳代・女性)

学校 (高校) へ行くために、できれば鞍手駅から弥生バス停への直線的な運行があったらいいと思います。朝は無理でも、せめて夕方と夜の便があつたら痴漢にあたりせず、安全に帰れると思います。親が迎えに来れない人は、どうしても暗い田んぼ道を自転車や歩いて帰らなくてはならないので危険です。(10 歳代・女性)

女性

路線バスの便数と路線を増やしてほしい。(20 歳代・男性)

すまいるバスは周回型にして西川地区、剣地区、古月地区に分けて、町内全般を回り、それから乗り継ぎできるようにして、5 年、10 年先に自動車だけでなく良いようにしてほしい。もやいタクシーは、予約しないで行けるようにしてほしい。(70 歳代・男性)

男性

鞍手町内でも泉水、永谷、古門、上木月などの居住者は、交通手段には日常的に困っていると思います。(70 歳代・女性)

女性

自由意見



住民や公的機関、町議会、警察、道路管理者などの代表で組織する鞍手町地域公共交通活性化協議会では、持続可能な町の公共交通のあり方を検討しています。

協議会では、試験運行の結果やアンケート、実態調査の結果を踏まえ、5月23日に開催した会議の中で、次のとおり見直しの方向性を確認しました。これに基づき、今後の協議会で、具体的な見直し案を策定し、2年目の試験運行に向けた取り組みをスタートさせます。

見直しの方向性を 活性化協議会で確認

見直しの方向性

- ・ 乗り継ぎをなくす路線への変更
- ・ 均一運賃など、高齢者にわかりやすい運賃体系の導入
- ・ 利用者のライフスタイルにあった運行ルートやダイヤの設定
- ・ 費用対効果や利用状況に見合った路線への転換

見直しに向けた具体的な検討事項

- ① すまいるバスまちなか線を、現在の往復運行から周回運行に変更し、できる限り乗り継ぎをしないで目的地まで行けるようなルートを検討する。
- ② まちなか線の運行ルート変更に合わせて、もやいタクシーのあり方を再検討する。乗り継ぎを基本とした現在の路線を変更し、鞍手駅までへの延長を検討する。また、もやいタクシーの予約については、当日の1時間程度前でも可能になるよう、対応を検討する。
- ③ まちなか線を周回型に変更することに伴い、距離別運賃の適用が困難になることから、みやわか線を含め、均一運賃の導入を検討する。もやいタクシーについても、すまいるバスとの公平性を確保した均一運賃への変更について検討する。
- ④ 定期券やフリーパス券を新設するなど、学生や一定年齢以上の高齢者にとって、利用しやすい運賃割引制度の導入を検討する。
- ⑤ 西鉄バス中山・中間線のうち、中間系統（69番線）について、町内のほとんどの区域を遠賀系統（68番線）が重複運行していること、また利用者がごく少数であることなど費用対効果の面から、代替交通の確保をもって廃止することを検討する。

もやいタクシー利用実態調査

- ・ 期間 平成24年3月8日から3月22日まで
- ・ 内容 利用状況、満足度や要望など
- ・ 対象 50人（利用登録者163人から無作為に抽出）
- ・ 方法 郵送による配布、回収
- ・ 回答数（率） 33人（66.0%）



Q 今後どのように改善すれば利用しやすくなると思いますか？（複数回答：57件）

路線を延長し、乗り継ぎをなくす	19人
便数を増やす	7人
運行ダイヤを見直す	3人
予約の時間を変える	14人
その他	8人
無回答	6人

今後の改善策としては、「路線を延長し、乗り継ぎをなくす」が最も多く19人。次いで「予約の時間を変える」、「便数を増やす」が多いという結果になりました。その他の改善策では、「今まで通り循環バスにしてほしい」という回答が複数（3件）寄せられました。高齢者にとって、「乗り継ぎ」や「予約」が、もやいタクシーの利用を制限する大きな要因になっていると言えるでしょう。

用できる公共交通を考えていただきたい。（80歳代・女性）

もやいタクシーの乗り継ぎは、接続時間などで便利が悪いので利用していない。すまいるバスを永谷区まで延長してもらいたい。役場、町立病院などに利用したいのでお願いします。（70歳代・男性）

率直な意見として、運行ルートを改善してほしい。高齢者の立場から考えると周回コースの方が利用しやすいと思います。また、運行ダイヤなども考えてください。（80歳代・男性）

フリーパス券で途中からでも乗降可能だと便利になるのでは：特に高齢者は。（60歳代・女性）

現在は、車を運転していますが近い将来お世話になると思います。利用していないのでルートや料金など分かりませんが、存続していただきたい。（60歳代・女性）

もやいタクシー
最も多かった改善の声

路線を延長し、
乗り継ぎをなくす